
病院病理部

教授(部長)

深山正久*

准教授

福島敬宜*(副部長)

講師

宇於崎宏, 太田聡*

病院講師(病理部)

高澤豊, 元井亨, 鹿島健司(英国留学)

助教

柴原純二, 牛久哲男(病理部), 坂谷貴司*, 石川俊平*, 日野るみ*, 森川鉄平*, 仲矢丈雄*(がんプロフェッショナル養成講座特任助教)

医員

山内直子, 宮崎秀幹, 加治一毅, 加藤洋人

ホームページ <http://pathol.umin.ac.jp/>

沿革と組織の概要

病院病理部と病因病理学専攻人体病理学・病理診断学分野(*)は、一つのユニットとして機能し、東大病院の病理診断業務(剖検・病理診断)と、人体病理の教育、研究に当たっている。

病理部固有のスタッフの構成は、講師1名、病院講師2名、助手2名、医員2-4名である。

診療(病理診断・剖検)

2007年度は、生検13,090件、細胞診17,676件、迅速診断658件、迅速細胞診558件、剖検78件(剖検率16%)であった。

剖検症例に関する検討会(病院CPC)を、病

院において毎月1回行い、毎回2症例について検討している。また、胸部、上部消化管、脳外科、肝臓、胆膵、泌尿器、婦人科、乳腺、整形外科の腫瘍、ならびに肝臓、腎臓、皮膚生検について、臨床各科との定期的カンファレンスを行っている。

我々の業務上の目標は、正確な診断を可能な限り早く臨床に提供することであり、新たに開発された迅速組織標本作製装置を用い、one-day pathologyを実現するべく、検討を重ねている。

また、ヴァーチャルスライド・スキャナーを導入し、院外からの標本をデジタル情報として保存している。今後、病理画像を院内に広く提供することを目指している。この件については、宇於崎講師が中心となって取り組んでいる。

前年度より継続して、厚生労働省「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」に協力して、「診療関連死」解剖評価を行った。

教育

M2 を対象に系統病理学講義，実習を対して行っている。クリニカル・クラークシップ，ベッドサイドラーニング（BSL）をそれぞれ M3，M4 に対して行っている。

卒後臨床研修制度で各研修医に義務付けられている CPC レポートの指導を行った。研修二年目のプログラムとして，2007 年には，7 名の研修医を病理部に受け入れた。

研究

東京大学先端科学技術研究所ゲノムサイエンス部門と共同で，癌特異抗体の開発を行っている。種々のヒト癌の DNA アレイデータをもとに，候補遺伝子産物に対するモノクローナル抗体を作製している。スクリーニングの過程を促進するため，腫瘍，非腫瘍組織の組織アレイを構築している。

出版物等

人体病理学・病理診断学分野の該当項参照。